

今月の御教え

天地金乃神はこの世の親神であるから、天地金乃神に信心して
るといっても、していないといっても、天地の間に生きてい
るには、天地金乃神の子に変わりはない。

……「天地は語る」第三十九条……

解説

この「御理解」からは、私達が信心させて頂いている「天地金乃神様」とは、単に金光教信奉者だけの神様ではなく、生きとし生きる私達人類すべての親神様であることが伺えます。

信心するものは勿論の事、信心していなくても「人は皆、天地金乃神の大切な、いとし子であり、何時も見守っている」との御思いであります。

よく似た「御理解」に、「天地金乃神は天地の守であるから、離れることはできぬ」とのお言葉がありますが、これも、いかに人が、信心していかろうが、信心を止めようが、神はそういった人たちをも「神の子として見守り続ける」との御思いであります。

これらの広大氣宇の御心こそ正に私達の信仰する「天地金乃神様」の御心であります。